

東京都における国際スポーツ大会のガバナンス強化に向けた有識者会議 中間のまとめ 主なポイント

資料 4_1

1 有識者会議の目的

国際スポーツ大会は、都民の健康づくりや都市の活性化などに有効で、今後も都として招致・開催を推進していく。

一方、スポーツの根幹はフェアネスにあり、大会の運営組織も、公正で信頼されることが必須。そのために都が大会運営組織へどのように関与するかを議論

2 議論の成果

- 有識者会議では、コーポレートガバナンス・コード、スポーツ団体ガバナンスコード、世界陸上の設立準備会「中間の整理」、東京2020大会・公式報告書等を参考にしながら議論・検討
- 委員から、企業統治の専門的知見等に立った、具体的事例を含めた助言をいただいた。

反映

大会運営組織の具体的取組、その実現に向けた都の関与を明示したガイドラインを策定

大会運営組織の主体的運営

- ・ ガバナンスの確立とその適切な運用
- ・ 国際スポーツ大会を通じ東京の発展に寄与
- ・ 国際スポーツ大会への都民の参画機会の確保

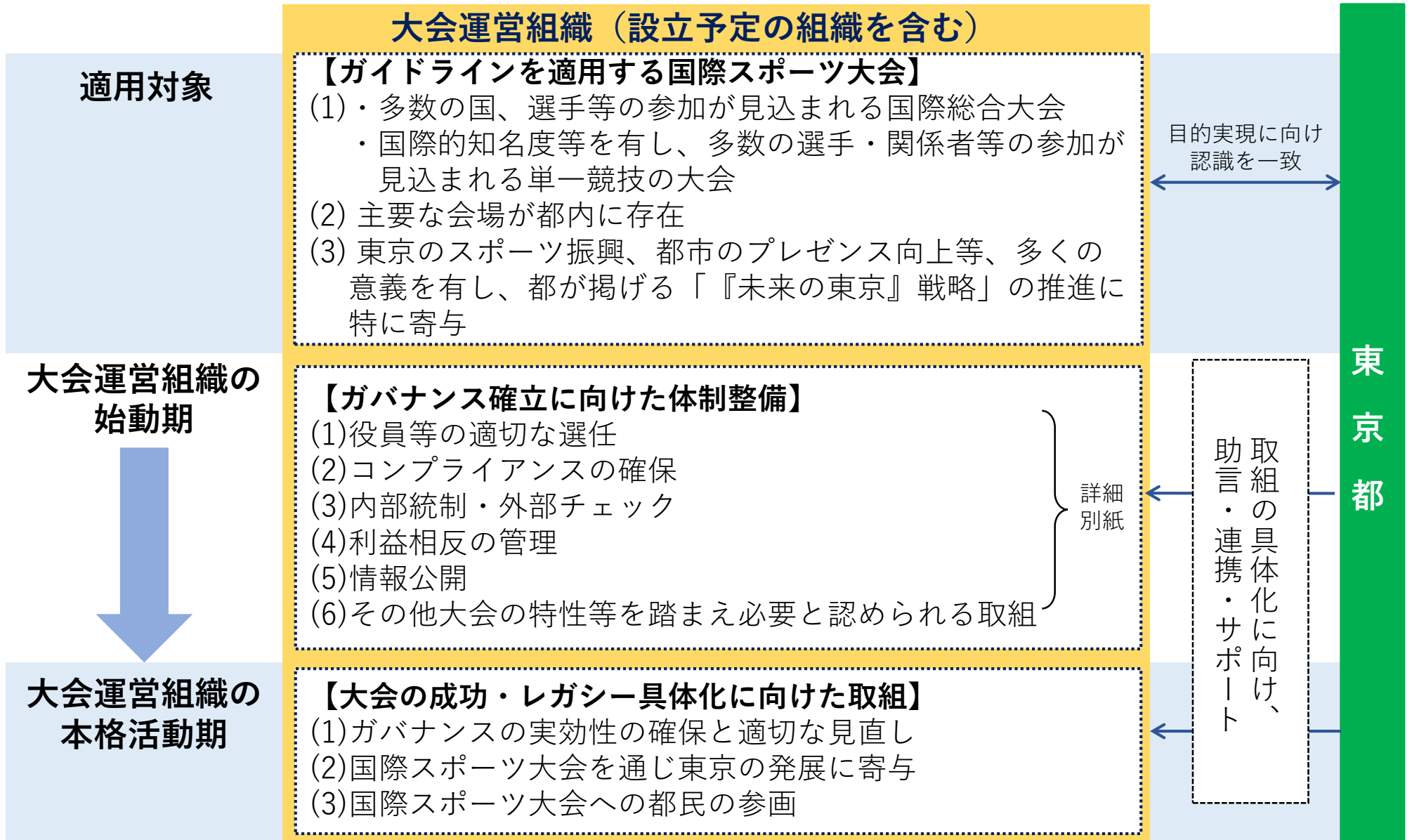
取組に対して、
助言、連携、サポート

東京都

3 今後の国際スポーツ大会に向けて

- ・ 2025年に開催予定の世界陸上とデフリンピックの準備運営体制の構築に向けて、各大会の特性等を踏まえつつ、ガイドラインを活用
- ・ ガイドラインは、国の「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方検討プロジェクトチーム」の検討状況等も参考に、必要に応じて精査

「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」概要



大会運営組織のガバナンス確立に向けた体制整備

項目	考え方と具体的取組例
①役員等の適切な選任	○理事等が組織全体の運営改善に不断に取り組むとともにその権限を適切に行使できるように適切に体制整備を行うことが重要 ≪取組例≫・役員等選考委員会を設置、選任方針を策定 ・役員等の行動規範の策定や就任時の誓約
②コンプライアンスの確保	○コンプライアンス確保に必要な体制整備に加え、役員や職員のコンプライアンスに係る知識の習得や意識啓発が重要 ≪取組例≫・コンプライアンス委員会を設置、監事等と情報共有 ・通報しやすい仕組みを備えた通報窓口を設置 ・当初から役員・職員へのコンプライアンス教育を継続的に実施 ・風通しの良い組織風土形成に向けた意識啓発
③内部統制・外部チェック	○公正妥当と認められる会計の原則にのっとった会計処理を行うことが重要 ≪取組例≫・収入・支出のプロセス等を事前及び事後に監督する契約・調達管理委員会を設置 ・内部監査部門を主として、監事・会計監査人との連携体制を構築
④利益相反の管理	○利益相反取引の管理は、法令上の遵守事項でもあり、組織の利益を損なうことを防ぐために重要 ≪取組例≫・利益相反の該当性をチェックする仕組みを構築 ・出向者が契約等にかかわる場合の規制や、権限・責任を明確化
⑤情報公開	○大会運営組織の開示する情報が都民との信頼関係を醸成するために重要 ≪取組例≫・法定事項に加え、組織の重要な決定や世の中の関心の高い事項を積極的に発信 ・非公開情報は、情報公開とは別の方法で、公正性を担保できる仕組みを構築し、非公開の理由を含め考え方を丁寧に説明